婦人と新社會

山田わか主筆

新年號

知力・勞働・感情

藝術の社會學

長谷川如是閑氏の『婦人參政論』を評す

—編輯の後—

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十三年十二月廿三日印刷納本

毎月一回一日發行　第五十八號　大正十四年一月一日發行

東京　婦人と新社會發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

知力・勞働・感情

知力階級が社會のために働かうとすれば、勢力ある勞働階級の補助は勿論得られる。けれども、社會の改造には知力と勞働だけでは足りない。

人間性を解剖することによつて、又は、現代の大危機を歴史的に研究することによつて、社會改造には知力と勞働以外に或るもう一つの要素が必要であることが暗示された、つまり、人間の德性は知力と活動以外の或るものから成り立つてゐるのである。

知力階級の存在によつて代表されてゐる知力、無產階級の存在によつて代表されてゐる勞働、此の二要素の外に感情と云ふものが存在する。そしてこの感情なるものは愛の原則であつて、我々人間の動力であり、そして人間性のいろ〳〵な部分を統一する基礎である。

知力階級と勞働階級の提携は如何に立派に實現されても、併し、それは感情と云ふ要素を代表しない。

社會的感情と云ふものが無かつたならば、知力階級も勞働階級も其の勢力を充分に行ふことが出來ない。云ひかへれば、社會改造に必要な勢力は知力階級と勞働階級と社會的感情の融合であらればならない。

知力と勞働に社會的感情を付け加へることによつて建設的運動は其の勢力を完備したことになる何となれば、やゝもすれば破壞的になる知力も勞働も愛の原則には服從する。そして、この愛の原則を代表するものは婦人である。

（オーギユスト・コント）

藝術の社會學

藝術と云へば、全く理窟をぬきにして、直ちに人の憧れの的となると云ふのが今日迄の一般でありました。ですから、藝術を解剖するなどと云へば、烈しい反對を引き起すことは火を見るよりも明かでありませう。

勿論、藝術は神聖なものであり、微妙なものであるに相違ありません。けれども、如何に神聖であり微妙なものであつても、これも亦矢張り人間の功績の一ツであり、しかも、人間社會の或る狀態の下に創造される、云ひかへれば、社會の狀態が藝術のために都合よければ善き藝術が生れ、社會狀態が其の反對であるならば惡い藝術が生れたり又は全然藝術が生れなかつたりします。其處で、此の頃、藝術の社會學と云ふことが云はれるようになりました。つまり、藝術も亦社會學の取り扱ひを受けなければならないものであると云ふ意見が現れて來たのでありま□。

藝術の社會學者は、文學、音樂、繪畫、彫刻と云ふようなものゝ上に、どう云ふ社會狀態がどう

云ふ影響を與へるかを研究しようとする、つまり、美學の全部を社會學の基礎の上に載せようと企てゝ居るのです。

勿論、こう云ふ企ては今始まつたことではありません。プラトーやアリストテレスの藝術に關する先入觀は、美を崇拜することが社會にどう云ふ効果を持ち來たすかと云ふ處にあつたし。又、キャントの美學は純然たる心理學的及び個人主義的であつたに拘らず、彼ですら猶、藝術は社會があつて始めて可能であることを認めてゐます。

現代の社會主義者が、社會主義の下に自由になつた人間の本當の特長を現す藝術の原則を發見しようとしてゐると云ふことは多くの人が認めて居る事實です。が、此處で、注意すべきは藝術を抽象的に云ふのではなく、個々に存在してゐる藝術を云ふのですが、併し、藝術の全範圍に關しての總括は出來ると思ひます。

道德と云ふ言葉のはつきり區別の付く色合を云ひ現すために無道德不道德と云ふ言葉が用ひられてありますが、それと同じ意味で美的と云ふ言葉の其の意味の度を現すために無美的非美的と云ふ言葉が用ひられてゐます。

そして、藝術のために都合のよい社會狀態を美的狀態と云ひ、都合の悪い社會を非美的と云ひ、それから、もう一種の社會狀態、つまり、其の社會狀態は美を創造することを奬勵してゐるのではないが、併し、美則ち藝術のために材料を供給する狀態がある、そして、これが無美的と云はれて居るのです。

で、社會學者にとつて最も密接な交渉があるのはこの無美的社會狀態であります。藝術の創造には其れだけで充分ではないが、併し、其の狀態が必要です。たとへば、親孝行とか犠牲とか云ふ行爲其のものゝうちには何等美に關する直覺があつたのでない。けれども、詩人や畫工又は其の他の藝術家が其の行爲を美化して大きな美術品を創造する。

藝術家が無美的社會狀態から材料を取り上げて來て一ツの藝術品を造り上げる。そして、其の藝術品が社會狀態に適合するものである時には其れが理想化されたのです。けれども、其の藝術品が社會と相容れない作品となつて現れた時には藝術家自身には如何なる理由があらうとも其の時の社會には其れが害となります。

又、藝術は家庭生活の情操を題材にします。そして、此の場合も藝術家の目の付け處によつて、

社會に受け容れられる理想化した人物が現れたり、又は、社會が到底受け容れない亂暴者を造つたりします。或ひは又、私有財産制度の觀念が題材となり、盗人が讃美され、警察が嘲けられる場面が出來上がつたりします。殊に、劇に於てさう云ふ場合があります。私が云ふ迄もなく、劇は凡ての藝術の中で最も社會的なもの、つまり、一般人の遊戯本能を社會化したものでありますから、それだけ社會に影響する處が大きいのです。

要するに、家庭も、經濟狀態も、政府の形式も、宗教も皆藝術の對象、則ち、材料となるのです。して見たならば、藝術と社會とは切つても切れない密着な關係にあり、從つて、其の關係は當然藝術の社會學の可能を認めなければならないと主張されてゐるのです。

進化論主義の倫理學者が倫理を取り扱つたように、社會學者が美學を取り扱はうとするのです。それ等の倫理學者が、彼等に默示された永久的原則から出立することの代りに、道徳は社會進化の作用であることを見て居ると同じように、社會學者も美學と美の理想を社會學的の作用にしようとして居るのです。

で、こう云ふ計畫は、藝術に對する云ひ傳へ、つまり、一種の尊敬心がかたまつてしまつて居な

かつたならば、容易に完成された筈である。美學に對する傳統なるものも、矢張り、政治及び道德に於ける革命と性質に於ては等しい反逆が必要であろうとも云はれてゐます。

實に、元始時代にも美の理想があつたとしても、其の理想は古典時代のものとも又はデカダン時代のものとも異つてゐるものであるに相違ありません。つまり、あらゆる形式の理想のうちに絶對の理想と云ふものはないのです。なぜなら、進化によつて藝術に都合のよい社會狀態が出來て、そして、始元的の美、又は、古典的の美が出來上がつたのです。其の過程を經ないで造り上げられた藝術が則ちデカダンの特長、一個の細工に過ぎないのです。

かくの如くに考へて來ると、藝術も亦社會の一現象であり、從つて、社會學的の取り扱ひを受くべきものであると云ふ意見を私共は承諾しなければならなくなるように私は考へます。

草間判二

美しき雪の衣に飾られて
冬を明るき北日本かな

謹賀新年
大正十四年一月元旦
山田嘉吉
山田わか

長谷川如是閑氏の『婦人參政論』を評す

一

婦人の參政運動に付て長谷川如是閑氏は

『……政治上、權力を得ようとする婦人は、同時に社會的に有力に働いてゐると云ふ關係から所謂社會生活の上で、もつと男性的な――と云つては語弊がある、今まで男子がうばつてゐた女子のなすべき仕事――を有力になしとげなくてはならない、女子が官吏となり、敎員となり、勞働者となり、商人となり、裁判官となる事はすでに今日にも實現されてゐる、さうなつて來るとそれ程有力な婦人が政治上男子の壓迫の下にゐなければならない理由はない、で、參政運動はそのやうに有力となつた婦人が行ふ場合に始めて力のある運動となるのである。』

と仰有つて、そして、家庭婦人の運動などでは婦人の政治上の權力は一歩もすゝむものではないと云つて居られます。けれども、官吏、敎員、勞働者、商人、裁判官となる婦人の力が社會上有力

である以上に、家庭婦人は、自分の位置と使命を自覺しさへすれば、より有力であり得ると私は考へて居るものです。なぜなら、家庭婦人は全般的であるに反して、家庭外に職業を持つ婦人は全婦人のうちのほんの一部分でありますから數の上から云つても非當な相違があります。

氏は、又『家庭の婦人は之亦社會上有力な働きをしてゐる人である、けれども家庭の生活は元來國家の生活とか會社の生活とか自治團の生活とか云ふものとは違つて、今日の社會の組織の上では强制的の支配や從屬の關係ではない、家庭と云ふものはそんな支配組織とは性質を異にし、そんなものとは離れて全く特別な關係から成立つてゐるのである、だからさう云ふ關係にとぢこもつてゐる人々は政治上有力になる必要はない。男子でも全く家庭ばかりの人ならば參政權は必要がない、唯其の人がいろいろな關係で國家や自治團や會社や商業やその他の社會的の關係を持つので、政治上の權力を得なければならないのである。』

と仰有つて家庭を政治の圏外にお置きになつてゐますが其のお考へを私は了解に苦しみます。政治が昔のように個々人の生活と沒交渉なものであるならばさう云へないこともないでせうが、併し個人の生活と益々密接な關係を持つて來てゐる今日の政治は國民個々人の幸福と進歩を主もなる目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

的としなければならないものであり、個々人の生活の幸福と進歩を計ろうとすることは、取りも直さず、個々人が必ず持つてゐる家庭の幸福と進歩を計るのでありますから・家庭は政治の圏外に置かれる處ではなく、家庭が政治の對照物であるとさへ私は考へてゐます。

國家や自治團や會社や商業や其の他凡ての社會的の仕事と云つた處で、要するに其れは皆個々人の生活の幸福を目的とするものであり、そして、其の個々人は家庭に於て生れ、家庭を持つてゐるものです。

ですから、個人主義的思想が非常に優勢である歐米に於てさへ、近年は家庭と云ふものに大きな注意が拂はれるようになつて來ました。現に、獨逸共和國の憲法は家庭の確立を力說し、母性の保護が國家の重要事業であることを規定してゐます。

實際、家庭と云ふ社會制度は隨分古いもので、國家は崩潰しても家庭はこはれないと云ふ性質のもの、つまり、人間生來の本質が造り上げてゐるものであり、社會生活を寫す鏡であり、同時に個人が社會生活をする準備場所であると云ふ處に、さすがに個人主義的の歐米人も氣が付いて來たのです。ですから、現代の社會科學に於ては家庭の研究が重要なる部分となつてゐます。實に、結婚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と家庭が人類學的に、又、社會學的に論じられてあることは當然なことです。

そして、常に變化して行く社會狀態が家庭と云ふ制度に變化を及ぼし、そして、家庭の意義は益々明らかになりつゝあります。

あらゆる制度はそれが社會制度であると云ふ事實によつて或る社會學上の作用を爲すものです。つまり、凡ての社會制度は個人と社會との結合的結果を生む機關と認むべきもので、從つて其の存在の理由と能率の有無は其れが社會的に有益であるか否かによつて定むべきものですが、さう考へて家庭の作用を見るならば、家庭が社會的に有益であるか否かなどのさわぎではない。家庭が存在しなかつたならば恐らく社會其れ自身が存在していないでせう。

勿論、家庭の社會的作用を見得ないばかりでなく、家庭無用論を稱へる人さへ世間にはありますが、併し、それは單に家庭を理論化する論者であつて、つまり、家庭を機械視する人です。もし家庭が一個の機械であるならば、從つて、其の代用物はいくらでもあります。たとへば、子供のためには托兒所、專門教育者、食事は共同食堂、洗濯は洗濯屋と云ふように、

けれども、人間は一個の自動機械になり得ないと同じく家庭も亦機械ではありません。則ち人間

は感情を無視して機械になり得ないと同じく、家庭を機械にしてしまつては感情の滿足を得られません。人間社會は感情の滿足を得ようとすることによつて進步ます。云ひかへれば、家庭の最大使命は愛を原則とし、秩序を基礎とし、進步を目的とする處にあるのです。

そして、この大使命に忠實であろうとするには、今日の社會に於ては、主婦が政治の力を借りる必要があるのです。

二

長谷川氏は、又、政治は力だと云つて居られます。今日の政治は實に其の通りです。で、政治は力だと云ふことは要するに一黨派の利益のために他の黨派の利益を犧牲にしようとする。つまり、無理をしようとするから力が必要なのです。

今日の政治が國民に滿足を與へないのは其の點です。利益の衝突を衝突として力によつて解決しようとする政治は本當の政治ではありません。又、ほゞ同等な勢力を造つて利益の平均を取ろうとするのも本當の政治ではありません。なぜなら、それは相互の利益を削り合ふことですから。本當

の政治は いろ〳〵の利益を融合することです。

人と議論をする目的は 相手を云ひ負かすことでもなく、又、云ひたいことを云ひツぱなしで引き下がることでもなく、意見を闘はしたことによつて 相方が利益をすると云ふのでなければならないと思ひますが、政治も、亦、或る一ツの利益を守るために 他の利益を無視したり、倒したりしてはならない。凡ての方面の利益を 融合して始めて本當の生きた政治です。

一職業上の利益を主張して 立つ場合には、多くの場合、他の職業の利益と衝突します。故に職業によつて權利を主張する時には 他の職業の利益を打ち負かすか、又は、それに打ち負かされることになります。そして、これは決して解決ではありません。

人間と云ふものは 必ずいろ〳〵の方面にいくつも〳〵の利害關係を持つてゐて、職業なら職業と云ふやうなたつた一ツの利害關係で 生きてゐるものではありません。社會は無數の利益の競爭場裡であつて、そして、それを整理し、調節し、融合させるものが國家であり、則ち、政治です。

ですから、最も多方面に利害關係を持つてゐるものが 政治上最も多くの勢力を持たなければならず、さうすることによつて 利益の融合が可能になるわけです。そして、其の最も多方面に利害關係

を持つてゐるものは家庭です。

最も多方面に利害關係を家庭が持つてゐることを人は今迄無視してゐました。が、此の意義を益々明らかにし、其の當然の權利を主張することによつて、婦人は如何なる方面からよりも女性の立場を最も有力にするものです。

云ひかへれば、公人として又は職業婦人として或ひは又勞働婦人としての婦人の權利を主張するよりも、家庭婦人として國民の母としての婦人の權利を主張する方が遙かに力强いのです。

前にも云つた通り、公人として職業婦人として勞働婦人としての權利はたつた一ツの生活關係の利益に過ぎないに反して、家庭婦人としての權利の主張は全生活の利益を代表するものであります。

三

「奴隷には政權がなかつた。然るに、近代に於ては奴隷が勞働者として社會的に力を持つことになつたのである。彼等が結束して動けば社會も動かされねばならぬ。そこで、奴隷階級にも參政權を

要求するのである。』とも 長谷川氏は云つて居られますが、實に其の通りです。奴隷視されてゐたけれども、社會に無くてならない 有益な勞働階級が自覺し、其の存在の理由を明らかにし、其の當然の權利を主張し、そして、今や其の主張は通ろうとしてゐます。

家庭婦人も自覺しなければなりません。單にものを造る勞働者が 一國民としての權利を獲得する時に、次代を生み育てゝ行く 責任を其の双肩に擔ふ、つまり、人間其のものゝ良否を決定する鍵を其の手に握つてゐる 家庭婦人は、自己の存在の理由を明らかにし、其の當然の權利を主張しなければなりません。

私も長谷川氏と同じように、今日の政治が 人間社會の理想的の組織でないことを認めてゐます。けれども、この既成組織に代はるものが 發明されないうちは、私共は、矢張り不完全でも此の組織に依らなければなりません。そして、依らなければならない以上は少しでも 完全に接近するように努力しなければならないのです。

編輯の後

皆様に申わけのない貧弱な本誌の體裁で大正十三年もとう〳〵暮れてしまいました。けれども、單に體裁を重んじ虚勢を張つて短命で終るよりもと云ふ氣持ちが私に無くもないのです。

あんまり小さなものになつてゐますので、或る婦人雜誌の社長が「定めし經營が困難なのだらう」と云ふ御同情から同氏の雜誌に合併してはどうかと御勸誘下さいました。同氏の雜誌の何頁かを私のために分けて下さつて「婦人と新社會」の名を掲げ、内容は私の絶對自由とし、其の上執筆に對する報酬を出すからと仰有つて下さいました。

けれども、私は則座に「大厦高樓のうちにどんなに優待されても借家はやつぱり借家です。貧弱なバラック式でも自分の家は住み心地がよいものですから」とお答へしました。「いや、御借しするのではなく。同居です。そして、あなたの自由は何處迄も尊重します」と云つて下さいましたが、併し、それでも事實はやつぱり借家のような心持ちが致しますので御斷りしてしまいました。

面白半分の、又は、華々しさを誇るための・ましてや金を儲けるための雜誌ではなく、眞面目な生活の足跡を命のある限り殘して置かうとする眞劍な　そして、先きの長い仕事なのですから、とにかく、無理をしてはいけないと私は考へて居りますのです。其のヘンの處を御汲み取りのヒ、どうぞ御了諾、御寛容の程を偏に御願ひ申上げます。

葉をふるひ落した樹々が地の中へグン〳〵勢力を張りつゝあることを思ひ。皆様の御健康を祈りつゝ。

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際に振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用には五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十三年十二月廿三日印刷納本
大正十四年一月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN